



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第16回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

### マナー編 野手をめがけたスライディングは重大な危険行為!

今春の選抜大会で、併殺を逃れたいのか、走者がベースではなく野手をめがけてスライディングするシーンがありました。審判が走者に注意していましたが、とても危険な行為だと思います。

スポーツ競技では「**お互いにけがをしない・させない**」もマナーの一つ。どんな時も、全員が安全対策を怠ってはならないのです。体力作りも、ある意味ではケガから自分を守るための技術を備える基本となるものとも言えます。

大リーグのような、一部に格闘技を思わせるぶつかり合いは大変危険です。ラフ・プレイという最大の非スポーツマン行為を根絶しましょう。同様に、**捕手や打者の防具もけがから身を守るもので、悪用は論外**です。

多くの人に見守られ、模範試合でもあるべき大切な舞台で、厳しく注意を受けた本人もですが、指導者の猛省なくてはすまないとても残念な出来事でした。



### ルール編 三塁走者のリタッチへの妨害行為

一死走者三塁の場面で右翼に浅い飛球があがりました。三塁走者はリタッチしようとしてベースに戻りましたが三塁手はベース付近に移動し、走者の視界を遮るような状況になったので、塁審は三塁手に移動するよう声をかけて注意を促しました。結果的に走者はリタッチを断念しています。三塁手のプレイはペナルティになるのでしょうか?

野手が走者の視野を遮り、次の塁への進塁を妨げる行為は、規則 2-51 に定める「**オブストラクション(走塁妨害)**—野手がボールを持たないときか、あるいはボールを処理する行為をしていないときに、走者の走塁を妨げる行為」に抵触するプレイです。



さらに 7-06(b)には「走塁を妨げられた走者に対してプレイが行われていなかった場合には、すべてのプレイが終了するまで試合は続けられる。審判員はプレイが終了したのを見届けた後に、はじめて“タイム”を宣告し、必要とあれば、その判断で走塁妨害によって受けた走者の不利益を取り除くように適宜な処置をとる」と規定されています。

上記のプレイでも、**走者が本塁に到達できたと判断されれば得点が認められる**のです。間違った頭脳判断による三塁手の行為は、逆に失点を招くことにもなります。**三塁手の任務は、走者が正しくリタッチしているかを確認する位置取りをすること**でした。これはルールよりもマナーの問題です。攻撃側も守備側も、常にお互いのプレイを妨げないことがルールの根幹です。**オブストラクションは、「野手が意図的であったか否か」ではなく、「実際に妨害があったか否か」が審判の判断基準**となります。  
「強肩と俊足を競うクロスプレイ」を台無しにして好ゲームはあり得ません。



